



拓殖大学 窪田 祐司さん ～CELTA 取得への道～

日本の大学生が CELTA を！？

CELTA (セルタ) という資格をご存知でしょうか？世界で広く知られる、英語を母語としない人に教えるための英語教授資格でケンブリッジ大学英語検定機構が提供しています。

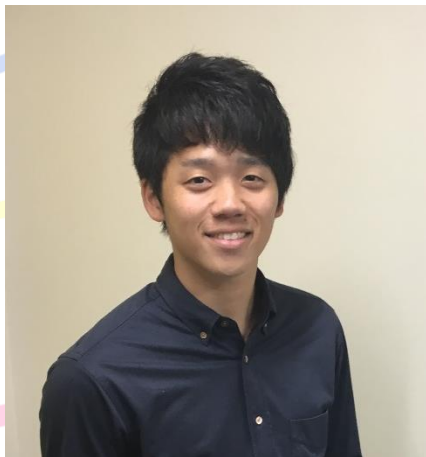
CELTA が他の英語教授資格と一線を画するのは、その実践さにあります。CELTA コースでは理論を学んだ後に、実践（ティーチングプラクティス：実習）が行われます。自分でレッスンの到達目標を設定し、それを基にレッスンプランを組み立て、実際にそのプランに従って実習を行います。クラスメイトや CELTA チューターにレッスンオブザーブ(授業見学)をしてもらい、その場でフィードバックを受けることで、実践力と即戦力を養います。

課題と実習を全てこなし、チューターからの厳しい審査をクリアしたら、晴れて CELTA 取得者になることができます。

実は私も CELTA を取得しました。日々の課題をこなすだけで精一杯なのに、実習前は課題に加えレッスンプランの作成と実習の練習…と、寝る時間もなく学んだ日々を思い出します。英語母語者のクラスメイトたちでさえ苦戦している中、日本人である私が CELTA を取得することは無理があると何度もくじけそうになりました。

私にとって CELTA 取得はその後の自信に繋がりました。ティーチング力だけでなく、英語力もしっかり磨かれたと感じています。CELTA 取得者に出会うとあの時の恐怖（？）が蘇り一緒に戦った同志であるかのような感覚に陥り、敬意をも感じます。

そんな中、今回は日本の大学生が CELTA を取得したと聞き、インタビューしてきました。どれほどガッツがある大学生なのか、この目で確かめたかったからです。



今回インタビューに答えてくれた窪田さん



ケンブリッジ大学出版(以下ケンブリッジ)： それでは、自己紹介をお願いします。

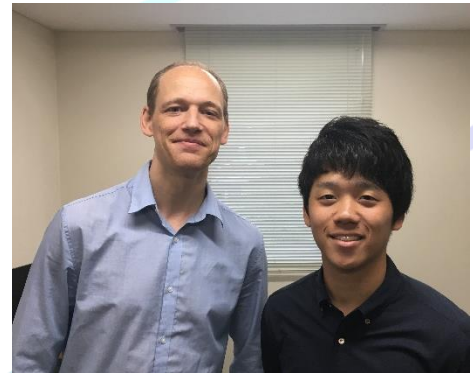
窪田さん： 名前は窪田祐司と申します。拓殖大学の4年生です。今は英語と英語教育を学んでいます。将来の夢は英語教師になることです。

ケンブリッジ： 今回は、学生で CELTA を取得した方がいると聞き、驚いてかけつけました。CELTA を受けようと思ったきっかけは？

窪田さん： CELTA を最初に知ったのは大学2年生の時でした。教授がコースをすすめてくれたのですが、その時 CELTA を取る自信はなかったので、CTESOL という一つ下のレベルのコースを2年生の時に受講しにイギリスに行きました。

そこで経験したことはやはり初めてのことばかりで、またそれまで英語教育の知識がなかったので、衝撃的なことばかりでした。それで帰ってきて、そこから英語教育に関する考え方が変わりましたし、勉強のスタイルも変わりました。

そして1年間クリス先生のゼミで英語教育を専門的に学び、1年後に自分に自信がついたときにやはり CELTA を取得したい、大学生活で何かを達成したいという思いから、もう一度 CELTA を受験しようということで、3年生の時にイギリスに行きました。



ケンブリッジ： CELTA をイギリスで受けるためのコースは、どのくらいの期間で行われましたか？

窪田さん： 春休みの2月から3月の1ヶ月間行ってきました。

ケンブリッジ： 周りにはどんな人がいましたか？

窪田さん： CELTA コースのクラスメイトはほぼイギリスに住んでいるネイティブで、日本人は私一人でした。



ケンブリッジ：実際にイギリスで CELTA を受けてみた感想は？

窪田さん：自分の今までやっていた教育は、文法中心であったりとか先生からの講義形式のものであったのですが、そこで見たのは先生が話す時間より生徒が話す時間の方が圧倒的に長かったです。先生は常に生徒を観察しているところに、最初は感銘を受けました。

いざ自分でやってみると、やはり指示するのも難しいですし、どうやって観察していいのか、最初は試行錯誤でした。そういう事を毎日していく中で、少しずつ生徒にどうアプローチするべきなのか、レベルが違う生徒がいる中でどうやって対応していけばいいのか、学べたと思います。

私が思う CELTA の素晴らしいところは、午前中に授業があつて、午後に模擬授業があるので、午前中に学んだことを午後に直接試すことが出来るのがとても魅力的で、自分自身も学ぶ上ではいい環境だったなと思います。

ケンブリッジ：CELTA を受けるのは過酷だという噂もありますが、実際どうでしょうか？

窪田さん：実際は・・・もちろん楽しかった部分もあるんですけど、授業準備とか授業計画とかはかなり時間がかかりました。私の場合にはとくに英語のスピーキングのレベルがまだまだだったので、授業で使う言葉をパソコンでタイピングして、それを見ながら家で模擬授業をしました。

土日も含めてほぼ外には出ず家で準備をする状態だったので、すごく忙しかったんですけど、その分楽しかったのもあります。

ケンブリッジ：英語に興味があるから CELTA を受けたと思いますが、CELTA 取得までの英語学習歴教えてください。



窪田さん：高校の時私は野球部に入っていて、大学に入るまで野球しかしていなかったので、大学に入ってから本格的に英語の勉強を始めました。高校で英語をやっていなかったので、最初は本当に苦労しましたし、知らない文法だらけでした。大学のクラスでも下から2番目のクラスでしたので、教育歴って言うのはほぼない状態でした。

教育に関しては全く無知でしたけれども、大学の教授が CELTA を紹介してくれた時に興味がわきました。

実際 CTESOL と CELTA を取った後に、より先生になりたい気持ちが強くなりました。



ケンブリッジ：大学で本格的に勉強し始めたとの事ですが、どのように英語力を上げたのでしょうか？

窪田さん：拓殖大学ではTOEICを頻繁に開催しているので、まずはTOEICで点数を取ることを目標に自分で勉強しました。

ただそれだけだとスピーキングは育たないので、英語のスピーキングの授業で、この大学は素晴らしいネイティブの先生がたくさんいらっしゃるの、積極的に話かけるとか色々な工夫をしました。やはりそういう環境の中で勉強出来たのは良かったと思います。

今までやってこなかったもので、その分集中出来たんじゃなかなと。そしてすごく負けず嫌いなところがあるので、上のクラスに行きたい思いが強くて、勉強が出来たのかなと思います。

ケンブリッジ：日本での学習経験から、CELTAは日本の英語教育に役に立つと思いますか？



窪田さん：CELTAを受けて教育に対する考え方が変わりました。

イギリスでやっている授業の先生と生徒が話すバランスが日本とは全く違うんですけども、やはり自分自身も向こうに行ってからそういう教育で学ばれたという思いもありましたし、今の日本でスピーキングを鍛えることは必ず必要になってくるので、イギリスでの教育法、生徒が話すのを待たたりだとか、観察もしくは引き出してあげる、そのテクニックは日本の教育者すべてが学ばないといけないことなんじゃないかなと思っています。

本当に教職を取る上で、CELTAを他の人にも経験してほしいというのが自分の願いです。

ケンブリッジ：CELTAを受けるために、何が必要でしょうか？

窪田さん：私が必要だと思ったのは、文法のスキルと、あともちろんスピーキングのスキルは必要です。模擬授業の後は必ずフィードバックのセッションがあって、他のネイティブの生徒との話し合いがあります。そこで自分の言葉で伝えるのが出来ないダメだと思うので、やはりコミュニケーションのスキルが大事で、英語試験の点数だけを上げるという方法はあまり意味がないと思います。

もしくはやはり、そういう環境の中で自分がやっていると自信がないと出来ないと思うので、最初にCTESOLに行った時にはかなり苦労しましたし、ここまでやらないとダメだと言うこともあったので、教える事や教える準備を苦だと感じるようであれば、取るべきではないと思います。

ケンブリッジ : CELTA に合格するために特に苦勞したことは？

窪田さん : 私が苦勞したのは、ライティング力です。宿題のライティングの課題が週 1 回が出るんですが、それをパスしないと基本 CELTA は取得出来ないんで、それを直すために CTESOL を受験した後、日本で 1 年間ライティングに力を入れました。

おかげで CELTA では全て 1 発で通ることが出来ました。授業力に関しては、準備に時間をかければ出来るものだと思うので、やはりライティングの力が必要だなと思います。

ケンブリッジ : いろいろ大変そうですが、CELTA プログラムで面白い思い出はありますか？

窪田さん : 私が 1 番楽しかったのは、色々な国籍の人とのコミュニケーションです。模擬授業で教える生徒さんは学校の周りに住むノンネイティブの人達なんですけど、色々な国籍の生徒さんがいる中で、自分の母語ではない言葉を使って教えるときにこんなに色々な国籍の人がいるのに、1 つの言語でコミュニケーションを取れて楽しく笑えあえるのが感動して、そして自分ももっと英語頑張らなきゃと思いました。

ケンブリッジ : CELTA を英語教師や、英語教師を目指している学生におすすめできますか？

窪田さん : はい、おすすめします。行ってみる価値はあると思うので、そういう環境で一度やってみるのはためになるのではないかなと思います。

ケンブリッジ : そして最後に、今後の目標は。



CELTA のサーティフィケート

窪田さん : 先月神奈川県教員採用試験を受けて、10 月に結果*が出るんですけども、合格すれば来年からは高校の教師として働くことになります。***教員採用試験に合格しました！おめでとうございます！**

CELTA で経験したこと、学んだことを少しずつ日本の教育現場で活かせるように、まずは自分の授業で使って、将来的にそういったプログラムが広がって増えてらいいなと思います。

これからも勉強し続けたいと思います。



在学中から素晴らしい行動力を発揮し、努力の末に CELTA を取得した窪田さんが、いつか教壇に立って英語を教える頼もしい姿が目には浮かびますね！とても貴重なお話をありがとうございました！

CELTA (Certificate in Teaching English to Speakers of Other Languages)とは

英語を母国語としない人に対する英語教授法資格のうち、世界中で広く受験されている TESOL/TEFL のサーティフィケート。英語母語話者または同等の英語力を持つ方を対象とした資格で、最も国際的に知られており、世界中で英語教師として採用される条件に用いられています。英語教授法分野の入門レベルの国際資格。年間、10,000 人以上が CELTA のコースを修了しています。

英国のプログラムや学位を監査評価する機関の一つ Ofqual (Office of Qualifications and Examinations Regulation) は CELTA を英国の「全国資格フレームワーク」(NQF: National Qualifications Framework) のレベル 5 (学術資格のディプロマに相当するレベル) に定めています。1996 年より開始。

(<https://www.cambridgeenglish.org/jp/news/view/75-percent-elt-cambridge-celta/>)